

高崎市文化財調査報告書第360集

下和田遺跡

—高崎市新体育館建設事業に伴う発掘調査報告書—

2016

高崎市教育委員会

序

平成23年4月1日に中核都市へと移行した高崎市は、大都市として発展しています。

本書は、高崎市新体育館建設に伴う発掘調査報告書です。近年の発掘調査の成果により、本遺跡を含む高崎駅周辺一帯には平安時代の水田跡が広がっていることが明らかとなっていました。本遺跡でも水田に伴う畔などが見つかっており、古代の人々が農作業にいそしんでいる息吹が感じられます。

最後に、本報告書の発掘調査ならびに報告書作成に多大なるご協力をいただいた地元の皆様、関係機関、各諸氏の方々に厚くお礼申し上げます。本書を通して高崎市の多様な歴史を知る一助となれば幸いと存じます。

平成28年3月

高崎市教育委員会

教育長 飯野眞幸

例　言

1. 本書は、高崎市新体育館建設に伴い実施した「下和田遺跡」の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡は、高崎市下和田町四丁目2番1他に所在する。
3. 本遺跡には、高崎市遺跡番号592を付し、略称として図面管理や遺物注記に使用している。
4. 発掘調査および整理作業は、高崎市教育委員会事務局教育部文化財保護課埋蔵文化財担当が行った。

調査組織は、以下のとおりである。

平成26年度

- ・飯野眞幸（教育長）上原正男（部長）松本伸（課長）
- ・事務局（文化財保護課）
　　田口一郎（課長補佐兼係長）針井修（主査）加藤志津代（主任主事）
- ・調査担当
　　黒田晃（主査）矢島浩（主査）

平成27年度

- ・飯野眞幸（教育長）上原正男（部長）若狭徹（課長）
- ・事務局（文化財保護課）
　　角田真也（係長）針井修（主査）加藤志津代（主任主事）
- ・整理担当
　　黒田晃（主査）矢島浩（主査）

5. 遺構の写真撮影は黒田が行った。

凡　例

1. 本書で使用した地図は、国土地理院発行1/25000地形図（高峰）である。
2. 本書の座標値は世界測地系であり、方位は上記の座標北である。
3. 本書中の図版縮尺は各図に表示した。
4. 断面図に付した標高はT.Pを基準とした。
5. 土層・遺物の色調および土壤の注記は、農水省農林水産技術会事務局および（財）日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1990年版）』を使用した。
6. 遺構には次の略号を使用した。
S D : 溝状遺構
7. 火山灰等には次の略称を使用した。
A s - A : 1783（天明3）年の浅間山噴火に由来する火山降下物。
A s - B : 1108（天仁元）年の浅間山噴火に由来する火山降下物。

目 次

序

目次・挿図目次・表目次

1 章 調査に至る経緯	
1節 調査に至る経緯	1
2節 調査の方法	1
3節 調査の経過	1
2 章 遺跡の立地と環境	
1節 遺跡の立地と地理的の環境	2
2節 遺跡周辺の歴史的環境	2
3 章 検出された遺構と遺物	
1節 基本層序	8
2節 検出された遺構と遺物	8
(1) 1区のA s-B下水田跡と溝状遺構	8
(2) 2区のA s-B下水田跡と溝状遺構	10
(3) 3区のA s-B下水田跡と溝状遺構	12
(4) 4区のA s-B下水田跡と溝状遺構	13
4 章 まとめ	13

写真図版

抄録

挿図目次

第1図 下和田遺跡周辺遺跡分布図	3
第2図 下和田遺跡立地図	3
第3図 下和田遺跡全体図	5 6
第4図 下和田遺跡1区全体図	7
第5図 下和田遺跡2区全体図	9
第6図 下和田遺跡3区全体図	11
第7図 下和田遺跡4区全体図	12

表目次

第1表 下和田遺跡周辺遺跡一覧	4
第2表 1区土器観察表	8
第3表 2区土器観察表	10
第4表 3区土器観察表	12
第5表 4区土器観察表	13

1章 調査に至る経緯

1節 調査に至る経緯

平成25年10月、高崎市都市集客施設整備室より高崎市教育委員会文化財保護課（以下保護課）に高崎市新体育馆建設事業に因わり、高崎駅南の下和田四丁目2番1他の埋蔵文化財の状況について照会があった。保護課は、該当地周辺が区画整理事業や民間開発に伴い発掘調査された真町・栄町・新後閣遺跡に隣接し、近世高崎城下町遺跡やAs-B軽石層により平安時代水田跡が広がる地域であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年10月25日付けで、都市集客施設整備室より試掘調査依頼書が提出されたのを受けて、保護課は平成26年3月10日～13日に開発予定地の試掘調査を実施し、部分的な擾乱はあるものの浅間B軽石（以下A s - Bと呼ぶ）層下の平安時代の水田遺構を確認した。

試掘調査の結果を受けて都市集客施設整備室と協議を行い、遺構が現存する2381m²について発掘調査を実施することに一致した。

発掘調査は、翌年26年度の予定となり工事前の3ヶ月を発掘調査作業、27年度整理作業と報告書作成という枠組みで行われた。

2節 調査の方法

発掘調査は平成26年4月から6月まで実施した。発掘調査対象地が市街地であり、発掘調査中に生じた堆土の仮置き場を確保するため調査対象地を4つに分割し、北側から着手した。

発掘調査は、遺構が確認される深さ（遺構確認面）まで重機を使用して表土除去作業を行った。遺構確認面では人力により遺構平面の検出を行い、遺構の形状や重複関係の確認を行った。遺構確認後は順次人力での掘削を行った。掘削が完了した遺構は光波測距機で平面図・断面図および遺物出土状況の記録図作成をおこない、35mmモノクロ・カラーリバーサルフィルムおよびデジタルカメラによる記録写真撮影を行った。すべての遺構の調査が完了した後に埋戻しを行った。

3節 調査の経過

発掘調査は平成26年4月17日から同年6月30日まで行なった。以下に、調査中に記録していた調査日誌より抜粋して調査経過を振り返る。

4月17日	重機による表土掘削作業開始。 A s - B軽石層検出。	5月23日	1区・2区・3区の雨水排水。 2区のA s - B軽石の除去作業終了。
4月23日	仮設事務所・仮設トイレ設置。 発掘道具等の搬入。	5月28日	3区のA s - B軽石の除去作業開始。 2区の全体図・遺構測量と写真撮影。
4月24日	重機による表土掘削終了。 人力によるA s - B軽石層除去作業開始。	5月29日	2区・3区のセクション図作成。 3区の全体図・遺構測量。
5月9日	1区よりA s - B軽石の除去作業開始。 畦畔を検出。	6月4日	1区・2区・3区空撮準備。
5月12日	B.Mより原点の移動。	6月5日	空撮。
5月13日	セクション図作成と畦畔確認後写真撮影。 2区のA s - B軽石の除去作業開始。	6月10日	大畦の確認のため4区を設定。 重機による表土掘削作業開始。
5月19日	1区の全体図・遺構測量。	6月18日	4区のA s - B軽石の除去作業開始。 4区の写真撮影と埋戻し作業。
5月21日	雨のため1区・2区水没。	6月19日	4区の全体図・遺構測量。埋戻し作業。
5月22日	1区・2区の雨水排水。	6月30日	仮設事務所・仮設トイレ撤去。

2章 遺跡の立地と環境

1節 遺跡の立地と地理的環境

下和田遺跡は、高崎市下和田町四丁目に所在し、JR高崎市駅より南500mの市街地に位置している。下和田遺跡より西に約1.2kmのところに流れる烏川が南流し、東に約5kmには井野川が流れている。烏川と井野川に挟まれた疊、砂およびロームを基盤とする高崎台地上に立地している。遺跡周辺は微高地と後背湿地が複雑に入り組む地形を成しており、本遺跡は北西から南東へと帶状に続く後背湿地に立地している。遺跡周辺の現地表面の標高はおよそ94mである。遺跡内でも北西から南東へ現地表面で94.1m～93.5m、A s-B層直下で92.4m～92.35mと概ね北西から南東に標高が下がる地形となっている。

2節 遺跡周辺の歴史的環境

本遺跡周辺では、数多くの遺跡が発見されている。以下にその一部を取り上げて、本遺跡周辺の歴史的環境を概観する。

本遺跡周辺では厚い泥流層の堆積により旧石器時代の遺跡の検出は知られていない。縄文時代の遺跡も頗著とは言い難く、遺物の出土はあっても明確な遺構の検出は少ない。本遺跡周辺では高闘塚村遺跡や上中居遺跡群で当該期遺物の出土がある。

弥生時代になると、本遺跡から北900mに高崎競馬場遺跡があり、遺構の内容は不明ながら中期後半の土器が出土している。また、西400mには竜見町式土器の標識遺跡である竜見町遺跡があり、多くの土器が出土している。北東700mにある東町遺跡では溝状遺構や土坑が、北東1.5kmにある高闘東沖・村前遺跡では堅穴建物や環濠と考えられる溝が検出されている。いずれの遺跡でも微高地上に集落を営んでいた様子が窺える。

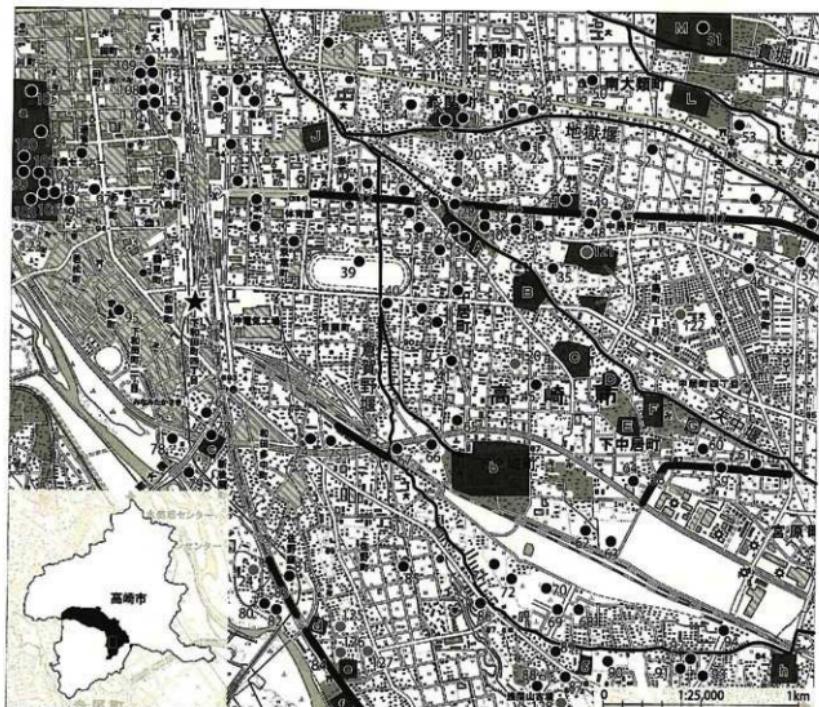
古墳時代の遺跡では、中居町一丁目遺跡で前期の方形周溝墓や堅穴建物跡が検出され、上中居辻薬師遺跡でも方形周溝墓が知られる。上中居遺跡群では前期の集落と水田跡を検出しており、弥生時代に引き続き微高地上に集落を形成している様子が看取される。また、現在ではすでに消滅しているが越後塚古墳は埴丘長が130m以上とされ、埋葬主体部は横穴式石室と推定される前方後円墳である。

平安時代の遺跡では、中居町一丁目遺跡や柴崎遺跡群、高崎城などで堅穴建物跡を検出しており、当該期集落の展開を確認している。本遺跡周辺では生産遺跡の調査も多い。真町I遺跡では9世紀代と考えられる水田跡が確認されている。天仁元年(1108)年に噴火したとされる浅間山に由来する火山噴出物(浅間B軽石:A s-B)は広く飛散しており、この軽石層に覆われた水田跡は高崎市内でも広域で確認されている。本遺跡を含めてその周辺では、栄町遺跡、東町遺跡、岩押町遺跡、岡久保遺跡や高闘東沖II・III遺跡、上中居平塚I遺跡、上中居荒神I・II遺跡など枚挙に暇がない。また、本遺跡より南東へと広がる後背湿地帯には、下之城条里や下中居条里など広範囲の条里水田域が想定されており、広い範囲で平安時代の生産域が展開していたことが明らかとなりつつある。

近世の遺跡では、高崎城遺跡や城下町遺跡などが調査されている。また、天明三(1783)年の浅間山噴火に伴う火山噴出物(浅間A軽石:A s-A)層を除去した水田跡や畠跡などが東町遺跡、栄町遺跡、岩押町遺跡などそれぞれ確認されている。

以上のような地理的・歴史的環境の中に本遺跡は位置している。

2節 遺跡周辺の歴史的環境



2章 遺跡の立地と環境

第1表 下和田遺跡周辺遺跡一覧

No	遺跡名	No	遺跡名
下和田遺跡	51 滋賀町村西遺跡	102 高崎城Ⅵ（三ノ丸遺跡）	
1 萩町Ⅰ遺跡	52 南大額柳原沖遺跡	103 高崎城Ⅶ（三ノ丸遺跡）	
2 保町Ⅱ遺跡	53 南大額村衛遺跡	104 高崎城Ⅷ（追手門遺跡）	
3 萩町Ⅲ遺跡	54 柴崎遺跡群（Ⅲ） (新堀・横堀・吹手西A・富士塚B)	105 高崎城Ⅸ I（高松第1駐車場遺跡）	
4 東町遺跡	55 柴崎遺跡群（IV）(西沖・柳原・吹手西B)	106 高崎城Ⅸ II（三ノ丸）遺跡	
5 東町Ⅱ遺跡	56 柴崎遺跡群（V） (殿谷戸・池・富士塚・隼人・吹手・峰岸)	107 高崎城Ⅸ III（三ノ丸）遺跡	
6 東町Ⅲ遺跡	57 西浦・吹手西遺跡（西浦1・吹手西1）	108 真町Ⅰ遺跡	
7 東町Ⅳ遺跡	58 下中筋条里遺跡（八幡前1・2、村西2）	109 真町Ⅱ遺跡	
8 東町Ⅴ遺跡	59 下中筋条里Ⅱ遺跡（八幡前3）	110 真町Ⅲ遺跡	
9 東町Ⅵ遺跡	60 下中筋条里Ⅲ遺跡	111 旭町Ⅰ遺跡	
10 岩押町Ⅰ遺跡	61 矢ヶ崎村西遺跡	112 旭町Ⅱ遺跡	
11 岩押町Ⅱ遺跡	62 下之城村東遺跡	113 旭町Ⅲ遺跡	
12 岩押町Ⅲ遺跡	63 下之城村東遺跡2	114 旭町Ⅳ遺跡	
13 江木山西前沖遺跡	64 下之城・村東遺跡3	115 弓町Ⅰ遺跡	
14 高間高根遺跡	65 下之城村北遺跡	116 江木源跡西遺跡	
15 高間坂村遺跡	66 下之城村西遺跡	柴崎遺跡群・南大額遺跡群 (焼落富士塚原・東原・新堀 ・西浦・西沖・南大額御原)	
16 高圓・煙村遺跡2	67 下之城村前Ⅱ遺跡		
17 高間東沖・村前遺跡	68 下之城村前Ⅲ遺跡	118 北久葉町遺跡	
18 高間東沖Ⅱ遺跡	69 下之城村前Ⅳ遺跡	119 八島町遺跡	
19 高間東沖Ⅲ遺跡	70 下之城村前Ⅴ遺跡	120 越後塙古墳（佐野村74）	
20 高間村前遺跡	71 下之城仲沖遺跡	121 稲荷塙古墳（佐野村71）	
21 高間村前Ⅱ遺跡	72 下之城仲沖Ⅱ遺跡	122 念仏塙古墳（佐野村69）	
22 囲久保遺跡	73 凰葉町Ⅰ遺跡	123 領政神社古墳	
23 上中筋平塚Ⅰ遺跡	74 和田多中道跡	124 御室塙古墳（佐野村10）	
24 上中筋平塚Ⅱ遺跡	75 上佐野鷹越遺跡	125 渋山古墳（佐野村27）	
25 上中筋平塚遺跡3	76 新後闇遺跡	126 武王塙古墳（佐野村65）	
26 上中筋早道遺跡	77 新後闇遺跡2	127 長者屋敷天王山古墳（佐野村34）	
27 上中筋北塚跡遺跡	78 城南小学校庭跡生遺跡（新後闇寺跡遺跡）	128 浅間山古墳（倉賀野1）	
28 上中筋北塚Ⅱ遺跡	79 新後闇寺跡遺跡（2次調査）		
29 上中筋北塚跡遺跡4次調査	80 上佐野船橋遺跡		
30 上中筋北塚跡遺跡5次調査	81 上佐野船橋Ⅱ遺跡	A 反町城	
31 上中筋北塚跡遺跡6次調査	82 上佐野船橋Ⅲ遺跡	B 新堀の壁（中筋の壁）	
32 上中筋北塚跡遺跡7次調査	83 船橋遺跡	C 下中筋新井屋敷	
33 上中筋西遺跡2次調査	84 下佐野遺跡Ⅰ地区	D 高尾屋敷（くぐり窓）	
34 上中筋西遺跡2次調査	85 下佐野音親寺遺跡	E 下中筋福田屋敷	
35 上中筋字名室遺跡	86 倉賀野東上正六遺跡	F 下中筋佐藤屋敷	
36 上中筋西屋敷遺跡	87 倉賀野東上正六遺跡	G 造場屋敷	
37 上中筋西屋敷Ⅱ遺跡	88 倉賀野東上正六遺跡（2次調査）	H 丸茂屋敷	
38 上中筋西屋敷Ⅲ遺跡	89 倉賀野上新堀Ⅰ遺跡	I 宇名空塙漆遣構	
39 高崎競馬場遺跡	90 倉賀野下新堀遺跡	J 両田屋敷	
40 高崎競馬場遺跡（1次調査）	91 倉賀野条里Ⅰ遺跡 (倉賀野上福荷・三坊木)	K 高間屋敷（角田屋敷）	
41 高崎競馬場遺跡（2次調査）	92 倉賀野条里Ⅱ遺跡 (倉賀野上福荷2・三坊木2)	L 大類館	
42 上中筋荒神Ⅰ遺跡	93 倉賀野条里Ⅲ遺跡 (倉賀野上福荷3)	M 大糸衆	
43 上中筋荒神Ⅱ遺跡	94 倉賀野条里Ⅳ遺跡 (倉賀野上福荷4)	a 和田之城	
44 上中筋遺跡群（土塁師3次岡西・岡東）	95 鬼見可遺跡	b 和田下之城	
45 上中筋烏賀瀬遺跡	96 猿物町遺跡	c 新後闇屋敷	
46 矢中道跡群（中居町二丁目遺跡）	97 高崎城下町遺跡	d 佐野屋敷	
47 中居一丁目遺跡	98 城下町Ⅱ遺跡	e 堀口屋敷	
48 中居一丁目遺跡2	99 高崎城Ⅲ（坪ノ耕形遺跡）	f 清水屋敷	
49 中居一丁目遺跡3	100 高崎城Ⅳ（坪ノ耕形及び三ノ丸遺跡）	g 倉賀野屋敷	
50 南大額中通遺跡	101 高崎城Ⅴ（東門及び三ノ丸遺跡）	h 永泉寺の壁	

3章 検出された遺構と遺物

1節 基本土層

調査地にはかつて工場が建てられており、調査区内に近現代のカクランが確認されているが、浅間B軽石（以下、「A s - B 軽石」）層をはじめ遺構面までの堆積層および遺構面以下の土層は良好に残存している。

現地表面から約85cm（1～3層）までがカクランを含む盛土層である。4層以下がカクランを受けていない堆積土層である。4・5層は浅間A軽石（以下A s - Aと呼ぶ）混土層である。4層は黒褐色でしまりは強く粘性も強い。5層は灰黄褐色で砂粒を含みしまりは強く粘性も強い。6・7層はA s - B混土層である。6層にはぶい黄褐色を呈しており、しまりは強く粘性も強い。7層は黒褐色でA s - B軽石を主体とする。場所によつては鉄分を含む。8層はA s - B軽石一次堆積層で、平均的な堆積厚は10cm前後である。9層がA s - B降下前の水田耕作土である。10層は黒色シルト層である。

2節 検出された遺構と遺物

（1）1区のA s - B軽石層下水田跡と溝状遺構

A s - B 層直下より7枚の水田跡と共に伴う畦畔状遺構6条、溝状遺構1条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。北端から南端にかけて緩やかな傾斜を持ち、比高差は約10cmを測る。

1号畦畔 調査区北端で検出された南北に向かう畦畔である。南端で東西に向かう2号畦畔と交差する。検出長は5mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約1.2mである。2号畦畔との交点での比高差は3cmを測る。畦畔主軸はN-5°-Eである。2号畦畔との交点から羽釜の破片が出土した。

2号畦畔 調査区の北端より検出された東西に向かう畦畔である。畦畔の中央部やや西よりで1号畦畔と交差する。検出長は11.5mであり、畦畔の幅は上端で0.6m、下端で1.4mである。1号畦畔との交点での比高差は3cmを測る。畦畔主軸はN-91°-Eではほぼ東西である。

3号畦畔 調査区の中央付近で検出された南北に向かう畦畔である。南端で4号畦畔と交差し、中央部付近でSD-1と重複する。SD-1の方が新しい。検出長は20.5mであり、畦畔の幅は上端で0.6m、下端で1.2mである。4号畦畔との交点での比高差は5cmを測る。畦畔主軸は4号畦畔との交点近くではN-5°-E、北よりではN-11°-Eと東に曲がる。

4号畦畔 調査区の南端付近で検出された東西に向かう畦畔である。畦畔の東端付近で3号畦畔と、中央部やや西よりで5号畦畔と交差する。検出長は8.7mであり、畦畔の幅は上端で0.6cm、下端で1.2mである。3号畦畔と5号畦畔との交点での比高差は共に5cmを測る。畦畔主軸はN-90°-Eで東西である。

5号畦畔 調査区の南端付近で検出された南北に向かう畦畔である。4号畦畔の中央部やや西よりで交差する。検出長は5.5mであり、畦畔の幅は上端で0.3m、下端で0.8mである。4号畦畔との交点での比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN-5°-Eである。

6号畦畔 調査区の南端付近で検出された南北に向かう畦畔である。調査区外であるが4号畦畔と交差する可能性が考えられる。検出長は4.7mであり、畦畔の幅は上端で0.5m、下端で1.2mである。4号畦畔付近での比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN-3°-Eではほぼ南北である。

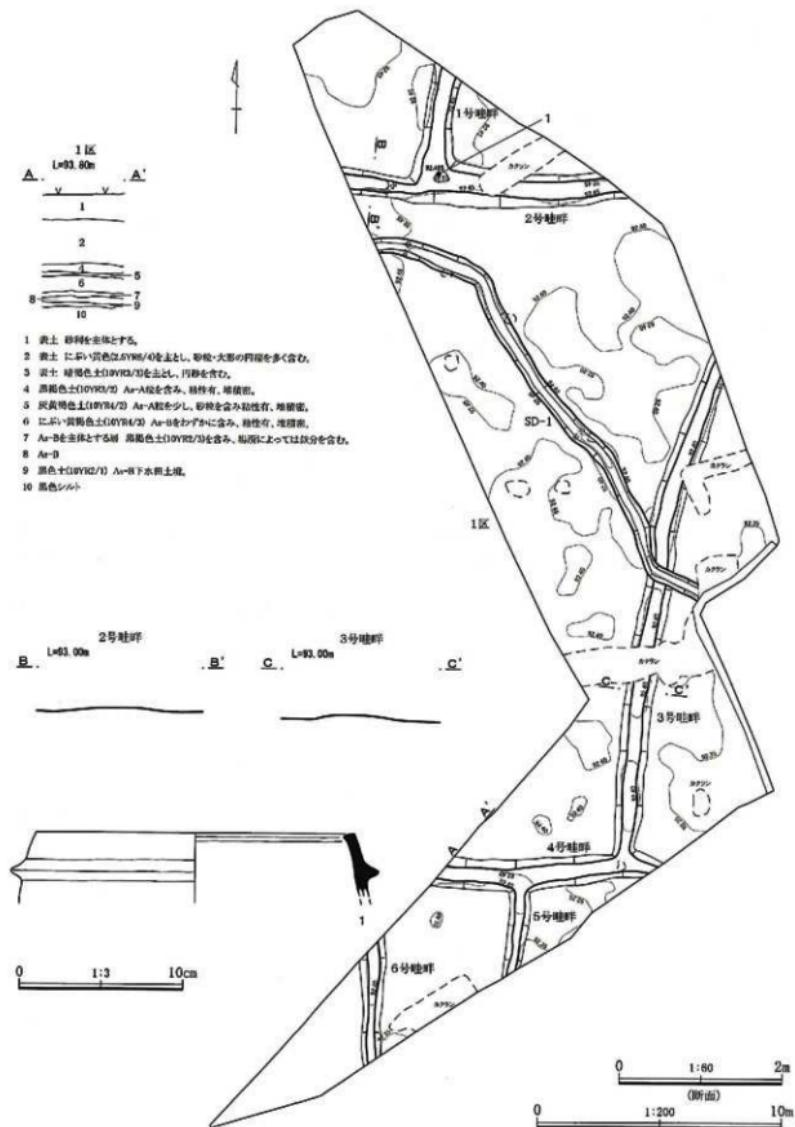
SD-1 調査区の中央部付近で検出された北西から南東にかけて「S字」状に走向るものである。南東端付近で近で3号畦畔を切っている。覆土は黒褐色を呈し、A s - B軽石混土である。検出長は20.5m、幅は0.6～0.8mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位は北西端でN-71°-W、中央部でN-31°-W、南東端でN-115°-Eである。本遺構からの遺物の出土はない。

1区の遺物観察表

（）：復元値、〔〕：残存値

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置
1	擂钵 (破片)	口径 (195) 底径 - 器高 [39]	①口縁部破片 ②5YR 6/6 棕色	外面 脚部鋸削と見られるが不明瞭、口縁横挫。 内面 脚部鋸削、口縁横挫。 脚部断面三角形。	2cm

2節 遺跡周辺の歴史的環境



第4図 下和田遺跡 1区 平面図・断面図・出土遺物

(4) 4区のA s - B軽石層下水田跡と溝状造構

A s - B軽石層直下より2枚の水田跡とこれに伴う畦畔状造構2条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。ほぼ平坦であり、比高差はほとんどない。

1号畦畔 調査区の西端付近から検出された南北に走向する畦畔である。検出長は5mであり、畦畔の幅は上端で約0.6m、下端で約1.4mである。比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-2°-Eでほぼ南北である。

2号畦畔 調査区の南端付近から検出された東西に走向する畦畔である。検出長は1.6mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約1mである。比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-88°-Eでほぼ東西である。

4区土器観察表

() : 復元値、〔 〕: 残存値

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴	出土位置
1	須恵器 壺	口径 底径 器高 [1.5]	①底部破片 ②10YR 8/2 灰白色	外面 底部回転糸切り。高台部台形 内面 底部回転糸切り。高台部台形	報土

4章まとめ

今回の発掘調査で確認された15条のA s - B軽石下水田跡の畦畔は、市内で検出されるA s - B下水田跡と同様に低く潰れた畦畔であった。(第2表参照) 検出された畦畔は方位を意識した規則的なものであった。また、水田跡をみると鋤痕や足跡等は確認されなかった。周辺遺跡からも北双葉町遺跡、八島町遺跡、真町I遺跡、旭町I・II・III遺跡、東町遺跡、栄町遺跡等でA s - B軽石下水田跡が確認されているが、いずれも条理を意識したような形で検出されている。このことからJR高崎駅周辺が生産地域として展開していたものと考えられる。

検出された4条の溝状造構は、掘込も浅いもので形状は皿状を呈していた。いずれも近世のものと考えられる。

下和田遺跡畦畔

1区畦畔

No	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位
1	5m	0.5m	1.2m	3cm	N-5°-E
2	12m	0.6m	1.4m	3cm	N-91°-E
3	21m	0.6m	1.2m	3cm	N-5°-E
4	8.7m	0.6m	1.2m	5cm	N-90°-E
5	5.5m	0.3m	0.8m	5cm	N-5°-E
6	4.7m	0.5m	1.2m	5cm	N-3°-W

2区畦畔

No	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位
1	16m	0.4m	0.7m	2cm	N-85°-E
2	19m	0.7m	1.4m	2cm	N-2°-W
3	11m	0.5m	0.9m	2cm	N-3°-E
4	25m	0.9m	1.5m	5cm	N-85°-E
5	15m	0.5m	0.7m	2cm	N-6°-W

3区畦畔

No	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位
1	12m	0.6m	1.2m	5cm	N-2°-W
2	11m	0.7m	1.4m	5cm	N-10°-W
水口	北側	0.5m	1m		
	南側	0.5m	1m		

4区畦畔

No	確認長	上端幅	下端幅	高さ	方位
1	5m	0.6m	1.4m	2cm	N-2°-W
2	1.6m	0.5m	1m	2cm	N-88°-E

3章 検出された遺構と遺物

(3) 3区のA s - B軽石層下水田跡と溝状遺構

工場建設時か取り壟し時のカクランが著しく、3区全体の1/3程およんでいる。A s - B軽石層直下より2枚の水田跡とこれに伴う畦畔状遺構2条、溝状遺構1条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。南端から北端にかけて緩やかな傾斜を持ち、比高差は約5cmを測る。

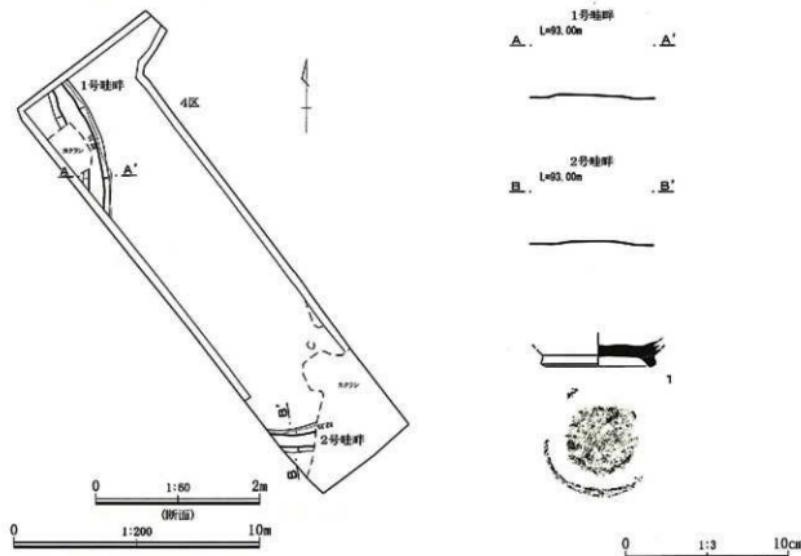
1号畦畔 調査区の中央部やや東よりから検出された南北に走向する畦畔である。検出された畦畔の中央部から水口が検出された。検出長は12mであり、畦畔の幅は上端で約0.6m、下端で約1.2mである。比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN-2°-Wではなく南北である。北側水口先端の幅は上端で0.5m、下端で1m、南側水口先端の幅は上端で0.5m、下端で1mを測り、水口間の幅は0.4mと狭い。

2号畦畔 調査区の中央部やや西よりから検出された南北に走向する畦畔である。北端でやや西に傾斜するかのように幅が広くなる。検出長は11.4mであり、畦畔の幅は上端で約0.7m、下端で約1.4mである。比高差は5cmを測る。畦畔主軸はN-10°-Eである。

S D - 1 調査区の東端付近で検出された南北にかけて走向ものである。覆土は黒褐色を呈し、A s - B軽石混土である。検出長は11.3m、幅は0.3mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位はN-13°-Eである。軟質陶器製の培壘が北端近くから出土した。

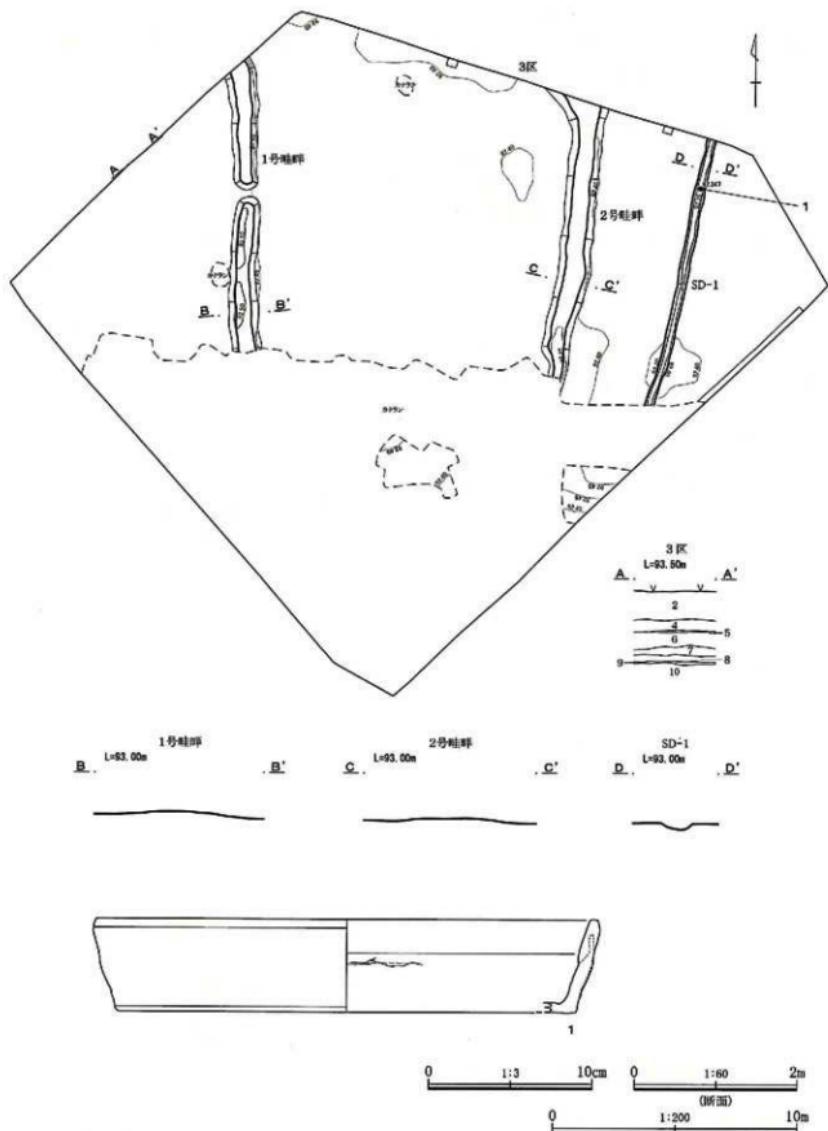
3区土器観察表

番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・変形技法の特徴		出土位置
				外面	内部	
1	軟質陶器 培壘	口径 (30.8) 底径 (28.1) 器高 5.7	①破片 ②外：75Y 8/2 灰白色 内：75Y 6/1 灰色	底部窓溝整、脇部縦縫整形、口縁横撫。 内面 底部窓溝整、脇部縦縫整形後撫拂、口縁横撫。 平底。脇部中位で膨らみ直立する。 口縁短く内傾、口唇平坦。輪積痕あり。酸化気味。		2cm



第7図 下和田遺跡 4区 平面図・断面図・出土遺物

2節 検出された遺構と遺物



第6図 下和田遺跡 3区 平面図・断面図・出土遺物

3章 検出された遺構と遺物

(2) 2区のA s - B 軽石層下水田跡と溝状遺構

A s - B 軽石層直下より6枚の水田跡とこれに伴う畦畔状遺構5条、溝状遺構2条を検出した。いずれの水田面も四辺すべてを確認しておらず1枚あたりの面積は不明である。1区とは逆に南端と北端にかけて緩やかな傾斜を持ち、比高差は約5cmを測る。

1号畦畔 調査区の北端付近から検出された東西に走向する畦畔である。北端で南北に走向する2号畦畔と交差する。検出長は1.6mであり、畦畔の幅は上端で約0.4m、下端で約0.7mである。2号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-85°-Eである。

2号畦畔 調査区の北端付近から検出された南北に走向する畦畔である。北端で東西に走向する1号畦畔と南端で4号畦畔と交差する。検出された畦畔中央部付近でSD-1と重複し、本遺構の方が古いものである。検出長は19mであり、畦畔の幅は上端で約0.7m、下端で約1.4mである。1号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-2°-Wではなく南北である。

3号畦畔 調査区の北辺中央部付近から検出された南北に走向する畦畔である。調査区中央部やや西より東西に走向する4号畦畔と交差する。北辺付近でSD-1と重複し、本遺構の方が古いものである。検出長は11mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約0.9mである。4号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-3°-Wではなく南北である。

4号畦畔 調査区の中央部付近から検出された東西に走向する畦畔である。東端で南北に走向する2号畦畔と中央部やや西より3号畦畔と交差する。検出長は24.7mであり、畦畔の幅は上端で約0.9m、下端で約1.5mである。2号畦畔との交点での比高差は5cmを測る。畦畔主軸は西端でN-85°-E、東端でN-90°-Eで緩やかに曲がるがほぼ東西である。

5号畦畔 調査区中央部やや西の付近から検出された南北に走向する畦畔である。中央部やや西より東西に走向する4号畦畔と交差する。南端でSD-2と重複するものと考えられる。検出長は15mであり、畦畔の幅は上端で約0.5m、下端で約0.7mである。4号畦畔との交点での比高差は2cmを測る。畦畔主軸はN-6°-Wではなく南北である。

SD-1 調査区の中央部やや北より付近で検出された東西にかけて「弓」状に走向するものである。2号畦畔の中央部を切り、北西端付近で3号畦畔を切っている。覆土は黒褐色を呈し、A s - B 軽石混土である。検出長は18m、幅は0.3m~1mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位は西端でN-92°-W、東端でN-85°-Eである。遺物は中央部と中央部やや西よりから出土した。

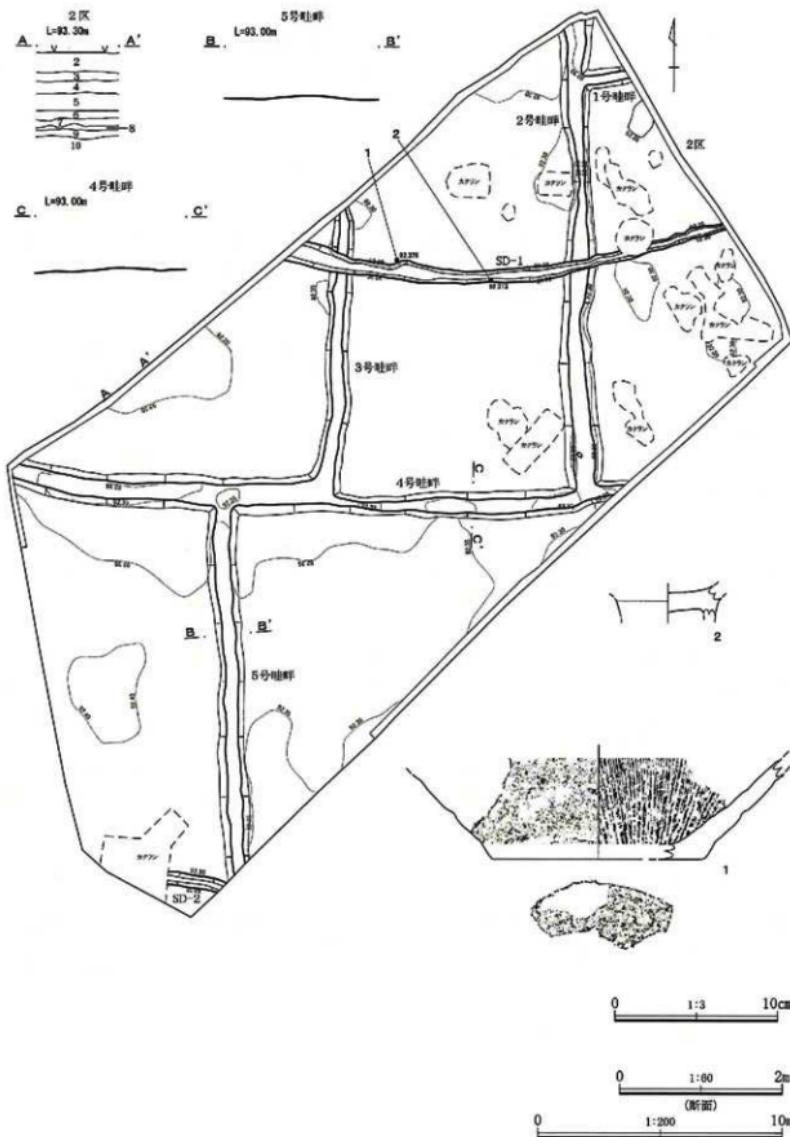
SD-2 調査区の南端付近で検出された東西にかけて走向するものである。5号畦畔を南端で切っていると考えられる。覆土は黒褐色を呈し、A s - B 軽石混土である。検出長は25m、幅は0.6mである。水田面からの深さは5cmを測る。主軸方位はN-110°-Eである。本遺構からの遺物の出土はない。

2区土器観察表

SD-1 () : 復元値、[] : 残存値

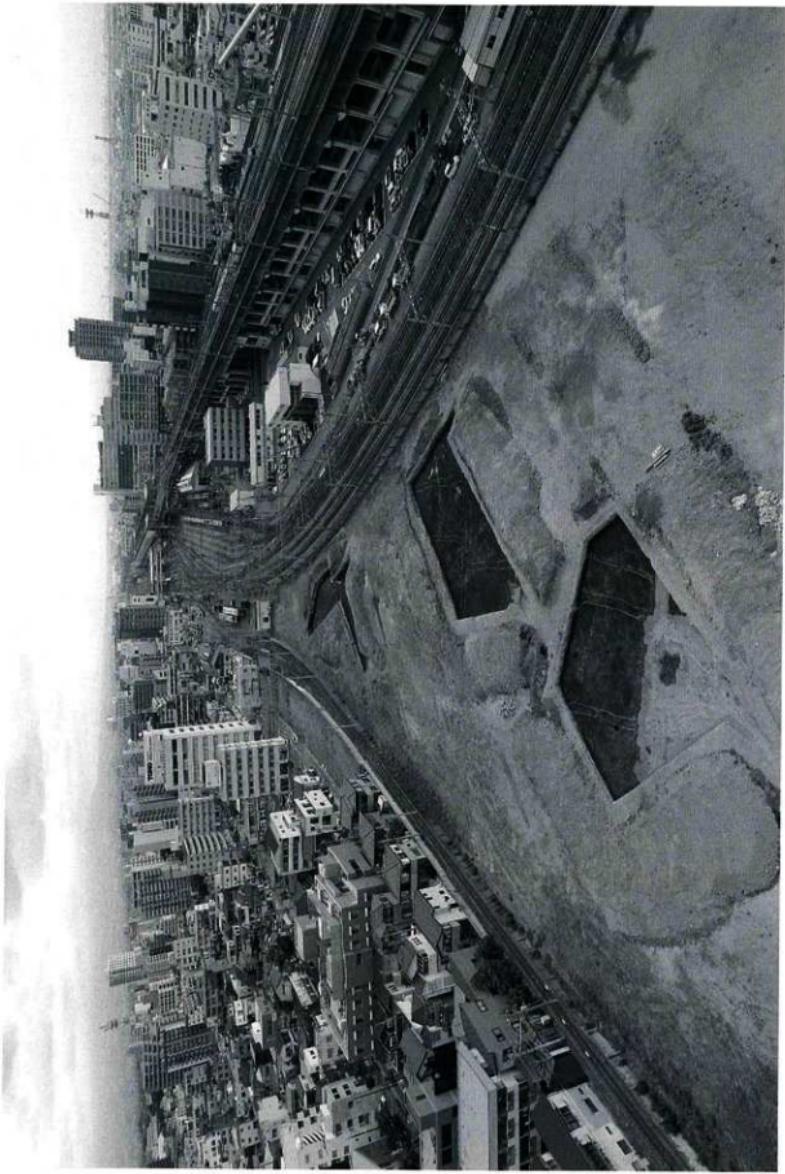
番号	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③胎土、焼成の特徴	成・整形技法の特徴		出土位置
				外面	内部	
1	鉢 (破片)	口径 底径 器高 -	-(13.0) [6.15]	①底～胴部破片 ②SYR 8/4 淡褐色	底部窓削、胴部窓削、指圧。 窓指。 平底 胴部「ハ」の字に大きく開く。小石を多く含む。	14cm
2	陶器 (常滑?)	口径 底径 器高 -	[1.9]	①破片 ②外：75YR 4/6 棕色 内：N 灰白色		8cm

2節 検出された遺構と遺物

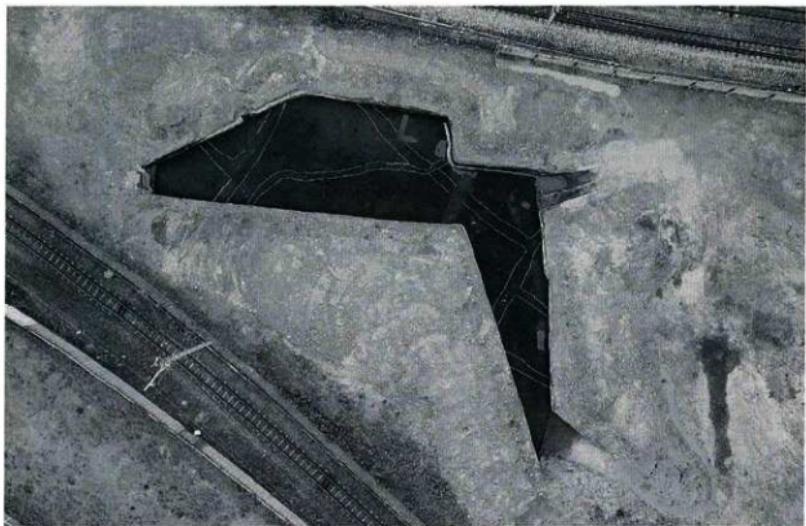


第5図 下和田遺跡 2区 平面図・断面図・出土遺物

下和田油路全景空撮



PL2



1区全景空撮



1区北側畦畔とSD-1



1区中央畦畔



1区南側畦畔



2区全景空撮



2区作業風景



2区東側畦畔



2区西側畦畔



2区西から

PL4



3区全景空撮



3区全景



3区1号側畦畔と水口



3区2号側畦畔



3区SD-1



4区全景



4区1号畦畔



4区2号畦畔

PL6



1区-1



2区-1



2区-2



3区-1



4区-1

抄 錄

ふりがな	しもわだいせき						
書名	下和田遺跡						
副書名	高崎市新体育館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	高崎市文化財調査報告						
シリーズ番号	第360集						
編著者名	矢島 浩						
編集機関	高崎市教育委員会						
編集機関所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1						
発行年月日	2016年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
下和田遺跡	群馬県高崎市下和田 町4丁目	102020 592	139° 0' 46"	36° 18' 58"	2015.4.17 2015.6.30	1,500m ²	高崎市新 体育館建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下和田遺跡	水田跡	平安時代 中~近世	浅間B鉢石層下水田跡 近世の溝	須恵器・陶器・ 鐵鉢	

<参考文献>

- | | |
|---------------|-------------------------------------------|
| 高崎市教育委員会 | 1995 『東町IV遺跡』 高崎市文化財調査報告書 第138集 |
| 高崎市教育委員会 | 1999 『真町II遺跡』 高崎市文化財調査報告書 第 163集 |
| 高崎市教育委員会 | 2001 『旭町III遺跡』 高崎市文化財調査報告書 第 176集 |
| 高崎市教育委員会 | 2002 『真町III・旭町IV・弓町I遺跡』 高崎市文化財調査報告書 第180集 |
| 高崎市教育委員会 | 2003 『榮町III遺跡』 高崎市文化財調査報告書第187集 |
| 群馬県埋蔵文化財調査事業団 | 2011 『榮町III遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第520集 |
| 高崎市教育委員会 | 2012 『北双葉町遺跡』 高崎市文化財調査報告書 第 295集 |
| 高崎市教育委員会 | 2015 『八島町遺跡』 高崎市文化財調査報告書 第 347集 |

高崎市文化財調査報告書第 360 集

下和田遺跡

2016 年 3 月 18 日印刷
2016 年 3 月 25 日発行

編集・発行／群馬県高崎市教育委員会
群馬県高崎市高松町 35 番の 1
電話 027 (321) 1111 (代表)
印 刷／上武印刷株式会社
